

# 共感という絆で結ばれる



## 大智だより

平成23年度  
第6号  
2012年1月27日  
【発行元】  
大智学園高等学校  
〒169-0074  
東京都新宿区  
北新宿1-21-10  
03-5925-2773

### 大智の絆

校長 岡田 義和

ドイツ生まれの理論物理学者であるアルバート・アインシュタインは「人は他人の為に存在する。何よりもまず、その人の笑顔や喜びがそのまま自分の幸せに繋がっており、それは共感という絆で結ばれている・・・」という一文を残しています。

今年、東日本大震災を受け、これまでさほど見向きもされなかった『絆』という表現が随分と話題となりました。震災後各地から人と人との支え合い、慈しみ合い、助け合いなど心温まるエピソードが毎日のように伝わってきました。

#### 絆

いつか描いた夢へ  
それぞれの歩む道  
迷い立ち止まるたび  
支えられた友の声  
いつもと違う空の下  
いつもと違う気持ち  
動き出す  
それぞれの距離が  
変わっていく  
今まで支えてきて  
くれて  
素直にいま  
ありがとう

冬晴れの十二月十八日、待ちに待った大智祭が開催され大勢の参観者で賑わいました。今年のテーマ「大智の絆」は入口に燦然と掲げられ、文字通り絆満ちあふれる文化祭となりました。作品群から、教育目標を彫りだした三年生の作品、折鶴五千

羽を使った『和』の表現、生徒二十一人の満ち足りた表情をモザイクアートで壁一面に表したクラス作品は見る人を心から共感させていました。ダンス部によるヒップホップ系のダンスや音楽部や選択授業ギター講座の演奏など内容もバラエティに富んでいました。

今年度は文化祭の準備段階から生徒たちの成長を垣間見ることができました。一例としてモザイクアートを取り上げます。この制作風景は本校文化祭の伝統になりつつありますが、今年度は「協調」があり、「秩序」があり、そして何より「信頼感」がありました。人と人が協力し、大きな作品を完成させようと黙々と頑張る姿はとても微笑ましくはつらつとしていました。これこそ新しい「大智の絆」です。

前述の詩は三年生展示教室に掲出されています。『絆』と朱墨で大書した上に生徒たちが文言を重ね、みんなど推敲し、時間をかけて校正した文章は墨痕鮮やかに仕上がっており迫力満点でした。「絆」の詩文には誠意があり、夢があり、居心地の良さを感じました。大書された壁面を前にしたとき、生徒一人一人が大智に根を下ろし始めたことを感じました。アインシュタインの言葉が腑におちてきます。

名文に嘘はありません。誠実に聴く耳、素直に見る目が大切で、詩文の・・・それぞれの距離が変わっていく・・・「いつか描いた夢へ」は後輩の皆さんに託された同窓という名の絆だと思います。三年間、絆をありがとう。

### スノーボード教室報告

一月五日(木)から七日(土)までの三日間、長野県小諸市高峰高原「アサマニッパスキー場」にてスノーボード教室を行いました。二回目となる開催でしたが、昨年度参加した生徒も含め、一年生から三年生まで合計三十名の生徒が参加しました。

日中でも氷点下という非常に厳しい寒さの中でしたが、生徒は滑走レベルの向上に励みました。

最初はビンディングの付け方やボードの上に立つことさえ困難だった生徒も、練習を重ねていくうちに、三日目にはスムーズにターンをしながら滑ることができるようになりました。初級・上級者の多くは昨年度も参加をしている生徒で、更に上達することを目指し、積極的に質問などをし、様々な技に挑戦していました。最終日には、体重移動をしっかりと行い、きれいな弧を描きながら上級コースを難なく滑ることができるようになりました。自由滑走の時間も多くの生徒がゲレンデに残り、学年を越えて互いに教え合い、励まし合いながら上達を目指す姿はとても印象的でした。

また、夜のミーティングでは各クラスごとの滑りをビデオで確認しました。普段は見ることの出来ない自分の滑りを見た生徒たちは、上手な生徒に滑走のコツを聞いたり、解説を聞いたりとゲレンデ外でも向上心をもって取り組んでいました。

三日間天候にも恵まれ、雄大な自然の中で生徒たちは、心地よくスノーボードに取り組むことができました。スノーボードの魅力を満喫できたのもちろんのこと、新たな友情が芽生えた三日間であったと思います。



# 文化祭報告

十二月十八日(日)に五回目となる大智祭が行われました。今回のスローガンは、生徒達のアンケートによって『大智の絆』に決まりました。今回の大智祭では、各クラスで作品を制作し、教員の投票によって賞を決定しました。その結果は左記の通りです。

・校長賞 二年二組 折鶴アート「和」  
・大智賞 三年有志 彫刻「大智の理念」

惜しくも賞に入らなかったクラスの作品も、大変素晴らしいものでした。

今回の文化祭は、文化祭実行委員を筆頭とし、多くの生徒たちが放課後に自主的に残って準備する姿を見ることが出来ました。部活動でも、活動日を増やして練習に励んでいる姿が見られました。短い時間ではありましたが、生徒達は、教員との絆、保護者の方々との絆、そして仲間達との絆を深めることが出来ました。

## 文化祭実行委員長 三年二組山本 薫

私は今回、初めて文化祭委員になり、実行委員長を任せられました。クラスの出し物や実行委員で制作した装飾などすべてに携わることができた、という訳ではないですが、少しでもその一員に加われたことを光栄に思います。また、文化祭成功のために、一丸となって協力してくれた生徒のみなさんや、先生方にはとても感謝しています。

第二部の全体会では、ビンゴゲームや腕相撲大会などの司会をやりました。慣れない司会に戸惑いもありましたが、生徒のみなさんの楽しそうな様子を見て大変嬉しく思いました。来年、再来年も後輩のみなさんで更に素晴らしい文化祭を作っていくってください。

## 【二年一組】

『縁日』をテーマに、ヨーヨーすくい、スーパーストックボールすくいなどのゲームを提供しました。当日は風船で仕立てた提灯を天井いっぱいにつるし、教室全体が祭の雰囲気味わえるよう装飾を施しました。教室に一步入ると縁日の空気に包まれ、ゲームはもちろん、その雰囲気も楽しんでもらうことができたと思います。

店番は生徒が順番に担当しました。最初は強張っていた表情も、しだいに笑顔で接客していました。役割を果たすだけでなく、在校生や、訪れた方々と楽しい時間を共有していました。

クラス制作では『縁日』というテーマに合わせ、大きな「提灯」と「団扇」を作成しました。大きな提灯にはクラス全員が自分の名前を半紙に書き貼り付け、団扇には今年のテーマである「絆」を刻みました。いずれの作品も、連日放課後遅くまで一生懸命に取り組んだ生徒達の力作です。



## 【二年二組】

一年二組は『クリスマス』をテーマに、クリスマスツリーを制作しました。新聞紙で小さいツリーを作り、それに色をつけ、針金の土台にくくりつけるというものです。一人一人が作るツリーは小さなものでしたが、全員分を合わせることで、とても大きなクリスマスツリーを作り上げることが出来ました。LHRや放課後に、クラスメイトと協力しながら作業することで、新たな交友関係を築けた貴重な時間になったと思います。

また出店では、チョコバナナとクレープを販売しました。前日の仕込みや当日の店番など、全ての生徒が協力しながら販売したこともあり、チョコバナナ一五〇本とクレープ一五〇枚が完売する大盛況ぶりでした。一年生にとって、高校生活初めてとなった今回の文化祭でしたが、実行委員を中心に、クラス全体のまとまりを再確認することが出来ました。



## 【二年三組】

我がクラスは、展示は大智学園の校舍をモザイクで作成し、企画では「お化け屋敷風ボーリング」をやりました。部屋の中を暗くし、蛍光灯にセロファンを貼り、机と時計に血糊を付け、ホラー映画の画像をたくさん貼りました。

期末テストが終わってからモザイク制作を始めたのですが、毎日、六、七名の有志が残って、最高では十五名の生徒が集まって放課後、制作に励みました。その結果、最初は完成が間に合わないか気が気ではありませんでした。何とか前々日には完成させることが出来ました。

当日は、七十人以上のお客さんが入り盛況でした。担当になったメンバーもすっかりと各自の仕事をこなし、大変よく働いていました。黒とピンク二種類のメイド服を着てお客さんに接した男子、女子ともに人気でした。そして、係の時間以外は、大智祭をみんな楽しんだ様子でとても有意義な文化祭となりました。



【二年一組】

『笑顔』をクラスのテーマに掲げ、高校生活二度目の大智祭を大成功でやり遂げました。

クラス制作では七ミリアの折り紙を約四千六百枚張り合わせ、一人一人の顔をモザイクアートにしました。中々先が見えず辛くなることもありましたが、自分の顔が完成するにつれ苦労が喜びに変わっていきました。完成した二十六人全員のモザイクアートを見た生徒たちは、自然と笑顔になりました。

模擬店の写真屋では、三つのテーマをもとに背景を作成しました。最高の笑顔で大智祭の思い出を残してほしいという思いで臨みました。当日は一二〇枚もの写真を撮影し大盛況でした。準備から片付けに至るまで始終意欲的に活動できました。また、大智祭を通して仲間同士が認め合い、励まし、支え合う姿はとてよよいものでした。来年は最上級生として「今年以上のものを」と今から意気込んでいます。



【二年二組】

テーマを『和』とし、大智祭に臨みました。「人と人とのつながりを大切にし、互いに協力し合う」という精神のもと、一丸で取り組みました。

制作は、「鶴文字アート」に挑戦しました。和の文字を五千羽の折り鶴で描くのですが、五千という数字に完成への不安もありましたが、二ヶ月前からコツコツとクラス全員で折り完成させました。この作品は校長賞を受賞することができ、生徒は和をもってこそ達成できると気付けたはずで。

模擬店は、たこ焼きとうどんを販売しました。実行委員を中心に生徒主体で準備を進めました。当日は生徒の積極的な販売もあり、たこ焼きは完売させることができました。店内での接客においては普段気付くことのできない丁寧な対応や言葉遣いを見ることができ生徒の成長を感じました。この大智祭は二組の結束力をより一層強めることできたと思います。



【三年一組】

三年生最後の文化祭は、生徒にとつて、ほんのつかの間、進路や将来への不安から開放され、楽しむことのできた時間であったと思います。一、二年生の時とは異なり、受験を控える生徒が大勢いるこの時期、大掛かりな準備をすることはできませんでした。しかし、LHRや放課後の空いた時間を使い、こつこつと準備を進めていく中で、友人とともに楽しい時間を共有することができたと思います。

三年一組は、「ケンタッキーフライドチキン」をモチーフに、『ミスターチキンドポテト』と銘打ち、から揚げとフライドポテトの販売を行いました。前日目の装飾準備、前日の飲食準備と、多くの生徒が積極的に準備を行い、当日はほぼ完売、大盛況となりました。

「文化祭も今年で最後か。」と言った生徒の言葉が寂しくも、新たな未来に向っているように感じました。この思い出を大切に。



【三年二組】

「大智の絆」大智生として最後となった大智祭のスローガンです。卒業まで残すところ僅か数ヶ月となり、三年生は特に「絆」を意識している様子でした。

その表れの一つが、大智祭の終わった今でも教室の後方に張り出されているメッセージに見られます。そこには、これまで支えてくれた仲間への想いが綴られ、最後に「ありがとう」の言葉で締められています。来校された方々にもじっくりと観ていただき、好評を得られ嬉しい限りでした。

三年二組では、白地に黒で「お好み焼き 風」とプリントされたタオルを身につけ、お好み焼きを販売しました。十六個のキャベツをはじめとする材料の買出し、仕込み、営業・販売。全員で協力する姿はとて頼もしく、大きな成長を感じることができました。

数ヶ月後には、各生徒がそれぞれの道を歩き出します。卒業後も、「絆」を胸に助け合ってほしい、そう願います。



【部活動ステージ発表】

・音楽部

三年生は「God knows」「小さな恋の歌」など全四曲、二年生は「宙船」を演奏しました。音楽室は超満員で、練習の成果を出すことができました。



・ダンス部

「Telephone」や「じよいふる」など、全六曲を発表しました。緊張の面持ちの生徒たちでしたが、観客の皆さんの応援で楽しく踊ることができました。



【選択授業発表】

・ギター講座(一・二年)

一年生は「空も飛べるはず」、二年生は「桜坂」を演奏しました。発表が終わった後の、生徒たちの安堵の表情と、満足げな笑顔が印象的でした。



・美容テクニク

講師の佐藤先生をお招きして、三年生がハンドマッサージ・ネイルケアの無料体験を行いました。在校生だけでなく来校者の方々にも大盛況でした。



教員コラム

三年副担任 英語科 富永 琢也

「トイレの神様」という歌を知っていますか。作詞作曲をした植村花菜さんは子供の頃に「トイレにはきれいな女神様がいるんやで、だから毎日キレイにしたら女神様みたいにべっぴんさんになれるんやで」というおぼあちゃんの一言で、苦手だったトイレ掃除も頑張れるようになりました。みなさんにも何気ない一言が、自分に立ち上がる勇気を与えてくれたことはありませんか。いつも隣にいる友人や、部活動で共に汗を流している仲間からの一言で笑顔になったり、力をもらったりしたことはありませんか。

私にも心に残る一言があります。学生時代に部活動の主将を任せられ、大事な試合直前にチームの前でスピーチをすることになりました。主将としての重圧に飲み込まれ沈黙が続いた時、チームメイトの一人がこう言いました。「琢也が言うことなら何でも聞くよ。君が主将なのだから。」この一言で体が軽くなったように感じました。その一言は今も心に響き、私を助けてくれてます。

たった一言で人の心を動かすことができるなんて、言葉の持つ力は本当に不思議ですね。みなさんも友人や大切な人からの一言を思い返してみてください。時間が経ち、今だからこそ心に響く一言もあると思います。そしてこれからは、友人や大切な人の一言を、もう一度心の耳で聴いてみましょう。人生の道筋のなかで、どれだけ自分に影響を与えてくれる一言と出会うのか、楽しみですね。

後期末考査

三年生は二月二日(木)、三日(金)、六日(月)、一・二年生は三月二日(金)、五日(月)、六日(火)のそれぞれ三日間で、後期末考査が実施されます。今回のテストが三年生は高校最後であり、一・二年生にとっても、一年間の成績を決定する大切な考査となります。期末考査終了後、基準点に達していない場合は、学年末に追試を受けなければなりません。日々の学習はもちろん、しっかりと考査の準備もして、基準点をクリアできるように努力していきましょう。

一、三月予定表

【二月】

二日(木)～六日(月)

三年 後期末考査

八年(水) 三年 試験返却日

十一日(土) 建国記念の日

【三月】

一日(木) 卒業式

二日(金)～六日(火)

一・二年 後期末考査

七日(水) 一・二年 試験返却

八日(木)～十三日(火) 大掃除

補講

十四日(水)～十六日(金) 追試験

十九日(月) 終了式

二十日(火) 春分の日

※年間行事予定表を配布しております。ご確認ください。